

JELA NEWS

ジェラニュース 第9号 2006年4月15日発行 発行責任者 ローウェル・グリテベック

日本福音ルーテル社団 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp 口座番号 00140-0-669206 加入者名 日本福音ルーテル社団

難民支援 ・ アジア子ども支援 ・ ブラジル子ども支援 ・ ボランティア派遣 ・ 奨学金制度 ・ 宣教師支援

社会に出ていき 手をさしのべる

「お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが乾いていたときに飲ませ、
旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれた。」
マタイによる福音書 第25章35～36節



スマトラ沖地震・インド洋津波被災地の復興事業に、
ルーテル3団体(JELA+JELC+KELC)が協力して
ふたたびボランティアを派遣！

JELAは1月15日からの一週間、日本福音ルーテル教会(JELC)および近畿福音ルーテル教会・海外宣教局(KELC・OMD)との三者共同プログラムとして、スマトラ沖地震・インド洋津波被災地復興仮設住宅建設ボランティアをタイに派遣しました。プログラム周知期間が短かったことや、日本国内からボランティアを募るのに適した時期ではなかったにもかかわらず、二人の熟年信徒が手をあげてくださいました。これに、昨年のタイ・ボランティア活動でもお世話になったKELCタイ宣教師・杉岡牧師が加わり、少数精鋭の有意義な奉仕活動が展開できました。詳細は、6ページ以下の3人の報告をお読みください。なお、杉岡先生はご自分のブログ(<http://mission.seesaa.net>)に、タイ宣教師としてのさまざまな働きについて記事を書いておられます。アジアのことや海外宣教に興味のある方はぜひお読みください。

この号にはこんな記事が

- | | |
|--|---|
| 「世界の子ども支援チャリティコンサート」の季節到来 | 2 |
| 難民支援 | 3 |
| ○改正入管法の運用実務から見えてきた課題と本来的なあり方 (石川えり) | |
| ○ビデオ紹介「日本の難民問題〜『となりの難民』とわたしたち〜」 | |
| アジア子ども支援 | 4 |
| ○ジャムケッド支援の二つの新しい動き (D・バーソン) | |
| ○日本に求められるアジアの人々との交流 (長谷川勝義) | |
| ○聖心女子大学と聖心インターナショナル・スクールに感謝！ (L・グリテベック) | |
| ブラジル子ども支援 | 5 |
| ○ご存知ですか？ ブラジルの子ども事情 | |
| ○クリスマス・チャリティイベント「ワインとチーズのパーティ」大盛況！ | |
| ボランティア派遣(スマトラ沖地震・インド洋津波・タイ南部被災者復興住宅建設支援) | 6 |
| ○熟年の力を必要としている世界 (杉岡直樹) | |
| ○日本に求められるアジアの人々との交流 (長谷川勝義) | |
| ○主を賛美する明るい歌声 (中村吉郎) | |
| その他 | 8 |
| ○「キリスト新聞」のJELAの記事 | |
| ○「チャート・グローブズ」特別集中講義 死を喜んで迎えるために 一のお知らせ | |
| ○JELAの事業年度と賛助会費／郵便払込取扱票の一部変更／支援者一覧／編集後記 | |

春風とともに 「世界の子ども支援チャリティコンサート」の季節が到来!



JELAと日本福音ルーテル教会・世界宣教委員会は、第3回「世界の子ども支援チャリティコンサート」を5月下旬に日本各地の8会場で開催します。2年つづいたヴァイオリンとピアノのテッパー親子にかわり、今回はハーピストのクリスティーナ・トゥーリンさんを米国からお招きし、くつろぎに満ちたコンサートをお届けします。収益のすべては、餓えや病気に苦しむ世界の子どもたちの現状を改善し、その将来に希望を与えるために用います。多数お誘い合わせの上、会場にお越しください。来場が難しい方も、折り込みの郵便払込用紙に「チャリティコンサート」と明記し、子どもたちへの愛の献金をお送りいただければ幸いです。

テーマ

Helping Children in Need

餓えや病気に苦しむ子どもたちに愛と希望を!

主催

日本福音ルーテル社団

日本福音ルーテル教会・世界宣教委員会

協賛団体

株式会社ハリファックスアソシエイツ／前田建設工業株式会社／株式会社西村建築設計事務所／有限会社リフォーム・イケ／精文堂印刷株式会社／小林商事株式会社／株式会社ケ

ン・コーポレーション／シュローダー投信投資顧問株式会社／野村證券株式会社／有限会社三島建築事務所／株式会社建吉組／泰成印刷株式会社／株式会社細田工務店／学校法人札幌ルター学園 めばえ幼稚園／株式会社ソニック・オクムラ／ルーテル教会「共に生きる」／有限会社タジリ住宅建設 他2団体(順不同)

演奏者

クリスティーナ・トゥーリン

(Ms. Christina Tourin)

4歳のときからハープを奏で、ザルツブルグ(オーストリア)のモーツァルテウム及びモントリオール(カナダ)のマックギル大学で演奏の専門的知識と技能を修得。映画『サウンド・オブ・ミュージック』のモデルとなったトラップ一家と親交があり、彼らがオーストリアから米国に亡命後、バーモント州に開設した宿泊施設で20年近く演奏会を開いている。ハープ療法のワークショップも数多く開催し、国際ハープ療法プログラムを創設して、そのディレクターを務めると共に、世界ハープ・オーケストラの編成にも尽力した。病院とホスピスで音楽に

よる癒しの実践をするかたわら、作曲、教育活動にも精力的で、多数の著作とCDを発表している。2005年春には、JELAの新プログラム「祈りのたて琴(リラ・プレカリア)」を推進するために来日し、ジェラ・ミッションセンターと聖ルカ国際病院礼拝堂にて演奏会と講演会を開き好評を博した。

演奏予定曲目

アイルランドの曲メドレー／ケルトの曲メドレー／薔薇にちなんだ曲メドレー／スカンジナビアの曲メドレー／南米の曲／自作曲メドレー／その他

コンサート日程と会場

5月19日(金)午後7時 田園調布教会
5月20日(土)午後2時 蒲田教会
5月21日(日)午後3時 札幌教会
5月23日(火)午後7時 本郷教会
5月25日(木)午後7時 京都教会
5月26日(金)午後7時 熊本教会
5月27日(土)午後2時 岡山教会
5月28日(日)午後2時 栄光教会

*時刻は開演時間。開場はその30分前です。

入場料

無料。席上献金の時間があります。

献金の用途

JELC連帯献金／スマトラ沖地震・インド洋津波で親をなくした子供の支援(インド、インドネシア等)／本の寄贈(カンボジア)／HIV・AIDS撲滅運動の支援(タイ)／食事と予防接種の提供(ブラジル)／小学校教師への経済的支援(パングラデシュ)／アジア人難民の子どもの支援(米国)／子どものホスピス支援(日本)／子どもをなくした家族のカウンセリング支援(日本)

*以上のいずれか、またはすべてのところに捧げます。

●当日のご参加はご無理でも、このコンサートをご支援くださる場合は、コンサート支援とお書き添えの上、下記の口座にお振り込みいただければ幸いです。

郵便振替 口座番号 00140-0-669206

加入者名 日本福音ルーテル社団

問い合わせ総合窓口

日本福音ルーテル社団(JELA)

150-0013東京都渋谷区恵比寿1-20-26

電話:03-3447-1521／ファックス:03-3447-1523／E-mail:jela@jela.or.jp

難民支援

過去2回この欄で、改正出入国管理及び難民認定法(以下、改正入管法)に関する弁護士と政府の立場をご紹介しました。今回は難民支援協会の石川えりさんに、難民支援の現場で働くNGOの立場から記事をお寄せいただきました。難民支援協会は、JELAの難民申請者用施設であるジェラハウスの運営でもたいへんお世話になっている団体ですが、その充実した難民支援の取り組みに対して、昨年12月に東京弁護士会人権賞が授与されました。この賞は同弁護士会が1986年から毎年、人権の擁護や確立のために貢献のあった個人や団体を選び、表彰しているものです。

改正入管法の運用実務から見えてきた課題と本来的なあり方

特定非営利活動法人・難民支援協会
専門調査員 石川えり



○法改正による変化

2005年5月より施行された改正入管法は、難民の認定に関する部分では難民認定制度が始まった1982年以来の改正でした。すでに施行よりほぼ1年となり、多くの変化が出てきているところです。

良い点は、手続き中に収容される難民申請者が減少したことです。また、異議申出手続きに参与員という民間の第三者が関わり、録音もされることにより透明化されました。また、参加人や補佐人という形で支援者が手続きへ参加する途が広がりました。その結果といえるかと思いますが、認定を受けた人の数はミャンマー(ビルマ)国籍が9割以上を占めるものの、大幅に増大しました。2005年は認定を受けた人が40人となり、また人道配慮により在留資格を受けた人も100人を超えました。2004年には、前者が15人、後者は9人でしたので、大きな前進です。

○改善が求められる点

昨年、難民支援協会では新規に約30カ国からの出身者・約250人へ支援をしました。そのなかで、法改正は大きな出来事であり、現場を担うNGOとしては前向きな変化を実感し、心強く思いつつも、さらなる改善へ向けて残されている課題を指摘させていただきます。まず、申請中に仮滞在が認められている人に対して就労が認められないため、彼(女)らが援助に依存せざるをえない状況に陥っていることです。認定直後に、すぐに職場が見つかるわけではありませんので、数ヶ月～数年間援助に頼らざるを得ない状況になります。パソコン等のスキルを持ち、仕事をして日本社会に貢献したいと張り切っている人もいる中で何とももったいない、と感じてしまいます。

とりわけ、法務省での手続きを終え、裁判に入ると一切の生活支援が受けられないにも関わらず、就労を禁止される人もいますので生きていくことが非常に困難です。これは支援の現場にあるNGOにとっては切実です。2004年1年間では地方裁判所レベルで18件の難民性を認める(もしくは、送還を認めない)という判決がなされ、2005年では地方裁判所に加えて高等裁判所でも2件の難民性を認める判決がなされました。また裁判中に明らかになった事実をもとに難民としての認定を受ける人もいます。裁判には最低でも1年程度要することから、この間、最低限の生活を送れるようにすることが欠かせません。

たとえば欧州では(難民の最終的な決定を)1年以上待っている人に対しては就労を認めるという最低基準が定められています。日本においても「食べていくことができない人」を出さないための制度設計が求められています。

○私たちにできること

働けず、かつ生活支援もない難民の人をおもに支えるのはJELA、難民支援協会等のNGOであり、皆様からのご支援です。この原稿を書いている隣で生活支援担当のスタッフが「病気がちのAさんは所持金があと700円しかない」と頭を抱えながらケースの解決に取り組んでいます。ぜひ、このような現状を知って頂き、例えば献金やお知り合いの方へ伝えていただくこと等を通じて課題の解決に関わっていただけましたら幸いです。難民支援協会では、難民の現状を伝えるビデオを作製するとともに、難民支援に役立つさまざまな知識を提供する「難民アシスタント養成講座」を定期的に開催しています。皆様が難民について理解を深め、その支援活動に参加する機会として活用して頂けましたら幸いです。詳細は、難民支援協会のウェブサイトをご覧ください。

(h)



難民に関する新聞各紙の記事



「日本の難民問題 ～『となりの難民』とわたし たち～」

(難民支援協会オリジナルビデオ)

日本にいる各国の難民の実情を、難民の声を交えて15分で紹介しています。

- 価格:1枚3,000円(DVDもしくはVHS)。
送料無料。
- 難民問題についての解説と学校での活用事例を示した資料(十数ページ)が付属。
- 制作:特定非営利活動法人・難民支援協会
- 協力:松下電器産業株式会社ボランティア・市民活動資金支援プログラム
- 問い合わせ先:特定非営利活動法人・難民支援協会(電話03-5451-5051)

ジャムケッド支援の二つの新しい動き

デビッド・パーソン(市ヶ谷教会)

「アジア子ども支援」プログラムの主要な支援地域であるインドのジャムケッドの最新情報を、義足作りワークキャンプの引率等として現地を訪問する機会の多いパーソン牧師がご紹介します。

○ 才能を開花させる機会の提供

「みなしごや、やもめが困っているときに世話をし、世の汚れに染まらないように自分を守ること、これこそ父である神の御前に清く汚れのない信心です」(ヤコブの手紙1章27節)

聖書に記された、このヤコブの教えにそった新しい働きをみなさんにご紹介します。つい最近JELAは、Suvekha Sadaphuleさん(下写真中央)の二人の娘、Poonamさん(11歳)(写真左)とSeemaさん(10歳)(写真右)の勉学を経済的に支援することを決めました。SadaphuleさんはジャムケッドのCRHP(総合地域保健プロジェクト)で働くヘルスワーカーです。彼女は主人をなくしたうえに、頼れる親戚が一人もなく、ほんのわずかな収入をやりくりして二人の娘を育てています。

CRHPの責任者アロレ博士とショーバ博士によると、この姉妹はどちらもたいへんに聡明で、十分な教育機会が提供されるなら、将来インド社会に大きな貢献をするだろうということです。この話を聞いてJELAは、学問修得に必要な二人の学費(現在は年額約3万6千円)を長期にわたって支援することにしました。JELAのサポートにより、二人は神様から与えられた才能を存分に発揮できるようになり、明るい未来が保証されました。さらに良いことは、子どもたちの教育費の悩みから解放された母親が、ヘルスワーカーという大切な仕事に専念できるようになったことです。

皆様からいただく献金を、このような形で人々に役立てることができるのはJELAの大きな喜びであり、この機会を与えてくださった神様と支援者の皆様お一人お一人に、心から感謝する次第です。



○ 新しいいのちの贈り物

もう一つお分かちしたいことがあります。それ



はジャムケッドの義足制作のことです。CRHPでは毎年800本を越える義足が必要とされています。事故で足を失くしたり病気で切断する人が多いからです。JELCとの共同プログラムの一つで、昨年からはじめたインドでの義足づくりワークキャンプは、この制作作業に実際に加わることで、毎日の聖書の学びを通して、クリスチャンとしての霊的成長を目指すものです。ジャムケッドの義足はアルミニウム、皮、ゴム等を材料にして、CRHPの人々が手作業で一つひとつ作っています。床に座ったり野良仕事をする人が多いインドの生活様式に合わせた形状をしています。人件費を除いた一本あたりの材料費は2千5百円です。この義足によって歩けるようになり、新しい人生の喜びをからだ全体で表す人の姿を私は現地で何度も目にしました。まさに感動の一瞬です。義足なしでは何もできず、残された人生を人にすがって生きるしかなかったかもしれない人々が、義足を与えられることで新しい人生、新たな機会に恵まれます。一本2千5百円の義足、それは文字どおり、新しいいのちの贈り物です。新しい希望、自信、喜びをもたらす奇跡、たえようもない祝福がそこにあります。

これからも毎年、ジャムケッドに多くの日本人を派遣し、義足作りワークキャンプを継続していきたいです。そして、キャンプで日本人ボランティアが制作する義足百本分の材料費だけでも「アジア子ども支援」として頂戴する献金から賄えればと願っています。日本人ボランティアが作り上げた義足は、それを必要とする人々にキャンプ最終日に贈呈されます。「新しいいのち」を提供する義足、その百本あるいはそれ以上の材料費を毎年皆さんと協力して捧げていきたいと思っています。

皆様のアジアへの献金は、子どもの学用品、予防接種、衛生的な水を供給するための井戸の敷設等に加えて、今後は以上のようなことがらにも大きく貢献します。そのことを心にとめ、お捧げいただければありがたいです。



聖心インターナショナルスクールの額川学校長(中央)と高校生たち

聖心女子大学と聖心インターナショナル・スクールに感謝!

聖心女子大学と聖心インターナショナル・スクールは昨年、アジアの貧しい子どもたちを支援するJELAのプログラムに対して、2度にわたり多額の献金をお寄せくださいました。まず昨年のはじめに、聖心女子大学の学生とその同窓生の皆様から、スマトラ沖地震・インド洋津波の被害にさらされたアジアの子どもたちを支援するJELAの働きに、50万円を超える支援金をいただきました。このお金は、大学がワインとチーズのチャリティイベントを催したさいに集まったものと伺っています。さらに別の時期に、「飢えや病気に苦しむ世界の子どもたちを救おう」というJELAのプログラムに賛同する聖心インターナショナル・スクールの皆様が募金活動をしてくださいました。これにより頂戴したお金は、インドのジャムケッドの子どもたちを支援するために用いさせていただきました。困っている人々を助けようというJELAの大切な働きを、このように力強く支えてくださった聖心女子大学とインターナショナル・スクールの皆様に、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

JELA事務局長 ローウェル・グリテベック

ご存知ですか？ ブラジルの子ども事情



- ブラジル人口の3分の1強を占める6千万人が17歳以下の青少年。さらにその内の2千万人の子どもたちが、国連が極貧とするレベル以下の生活を強いられています。
 - 親が病気だったり、父親がアルコール依存で働けなかったり、父親あるいは両親がいなかったり、母親が一人で大勢の子どもの育てていたり。このような状況は決して珍しいことではありません。
 - 生きるために小さいころから農園や工場あるいは路上で働き、学校にも行けずに自らの手で生活しなければならない子どもが数百万人もいます。
 - 就学したとしても8年間の義務教育を修了する子どもは4割以下、平均就学期間は4年未満、高等教育まで進学できるのはわずか3.6%です。この他に義務教育すら全く受ける機会のない子どもが大勢います。
 - 売春を強要されている少女(10歳から15歳)が200万人もいます。
 - 50万人の少女が、自らの家庭の中で性的虐待の犠牲者となっています。
 - 10代の少女の18%が妊娠し、十分な知識と保護のないまま子どもが子どもの母親になっています。
 - 毎年32万の幼児が5歳未満で死亡します。栄養失調、下痢、呼吸器疾患など、死因はすべて予防可能な病気です。
 - ブラジルのストリートチルドレンは大人になる前に殺されてしまいます。道路の清掃、市民の安全という大義名分の下、市民グループや死の部隊により、今日でも日に2人から6人の子どもが殺されていると報告されています。
- (JubileeActionの資料から)

貧富の差の大きい国、ブラジル。世界中で最も貧しい国の一つであるインド。それらの国では多くの子どもたちが貧しさにあえんでいます。子どもたちが路上に出ていかないように、子どもたちが子どもらしく、安心して「子ども時代」を生きることができるよう、JELAは多くの支援者のご協力を得て、世界の子ども支援に努力しています。

クリスマス・チャリティイベント 「ワインとチーズのパーティ」大盛況！

2005年12月16日、ブラジルの子ども支援のためにJELAは初めての試みとして「ワインとチーズのパーティ」を開催しました。当日は準備で大忙しでしたが、事前に用意したチケットの販売はパツとせず、果たして何人の方にお越しいただけるのか寸前まで全く分からない状況でした。しかし、開場の6時半には70余名の方々のご参加を数え、喜びのうちに会は始まりました。

数カ国のワインとチーズを賞味し、楽しい歓談のときを持ち、参加者の方々から献品いただいた品々のオークションを行い、また6月の出張の折りに収録したブラジルの子どもたちの様子をご紹介します時間を持ちました。

参加者からは、「ワインとチーズの他に豊かに用意されたごちそうを堪能しました」、「上品で楽しい雰囲気と演出を楽しみました」、「ブラジルの

子どもたちを知る良い機会でした」、「私たちもこのような催しをしたいと思います」、「ぜひまた同様の会を開いてください」などのうれしいご感想をいただきました。

参加費とパーティのために寄せられた献金は206,000円でした。またオークション売り上げが73,615円、ワインセールが102,000円、一方、ワインや食事代の出費が194,341円でしたので、187,274円が収益として計上されました。この収益のすべてを、ブラジルの教育福祉施設へコンシリアサンの厨房改修工事費用のために用いさせていただきました。感謝して報告いたします。



ボランティア派遣

スマトラ沖地震インド洋津波・タイ南部被災者住宅建設支援

●熟年の力を必要としている世界

杉岡直樹 (KELCタイ宣教師)



今回の津波ボランティアは、JELAとの協力プログラムとしては2回目になりました。1回目は昨年2月28日から3月7日までの約一週間、日本から10名のボランティアが送

られ、そのときはリゾート跡の清掃、道路の整備などをお手伝いしました。津波が襲った12月26日から起算してほぼ2ヶ月後という素早いJELAとJELCの行動に頭の下がる思いがしました。その後も様々な国から何百、何千というたくさんのボランティアが復興作業に参加してきました。

私も個人的にボランティア活動に参加してきましたが、その都度思わされたことは、あまりにも日本人のボランティアが少ないという現実です。遠く南アフリカやヨーロッパ、アメリカから丸一日、あるいはそれ以上かけてタイまでやってきて、グループや個人で参加する多くの欧米人ボランティアに対して、距離的にも民族的にももっと近いはずの日本人を含めたアジア人ボランティアの姿を見かけることは希でした。

ひとつは、情報の少なさによる関心の低下などが原因として挙げられるかも知れません。確かに情報を発信する者がいなければ、被災地のニーズを知ることは難しいでしょう。日本のメディアでは比較的被害の少なかったプーケット島の観光施設の復興ばかりを取り上げて、実際、もっと被害のひどかったパンガー県の様子を特集した番組を目にしたのは、津波からようやく1年経った昨年の年末のことでした。やはり誰か現状を知る者が情報を発信しなければ、何もアクションが起こらないのは当たり前なことかも知れません。

昨年の夏、日本に帰国した折りにJELAのスタッフの方々と2回目のボランティア派遣について話し合う機会を与えられて、快く協力を了承いただいたことは感謝なことでした。今回、ボランティア時期が学生の学期休みと合わないこともあり、若い方の参加は望めませんでした。59歳の中村さん、64歳の長谷川さんというお二人の参加者と一緒に復興住宅建設のお手伝いが出来たことは、とても得難い経験となりました。お二人とも本当にお元気で、毎日30度を超す暑さの中、他の各国からの外国人ボランティアと共に黙々とペンキ塗りや壁塗りの作業に従事しておられました。

今回、お二人の参加を知ったときは大変嬉しく思いました。というのは、昨年11月に同じ場所にボランティアに来たときに、Kids Around the World という団体による被災地

の子供達のための遊具を備えた公園づくり作業にも参加したのですが、そのアメリカからのボランティアのほとんどが60代、70代の方々だったからです。彼らは、定年後、すべて自費でこういったボランティア活動に参加し、紛争の傷跡が残るボスニア・ヘルツェゴビナや貧しい人々のいる地域など世界のあちこちで遊び場のない子供達のための公園を作りつづけていると言います。

日本は高齢化社会と言われていますが、これからますます熟年の力を必要とする場面が世界にはたくさんあります。またそういった世代が元気に活動することによって若い人たちにも良い刺激になっていくのではないかと期待しています。そして、このようにして世界において他国の人々と実際に協力しながら働いていくことによって本当の意味での世界平和が築き上げられていくことを願っています。

最後に今回、諸手続や事務面で全面的な協力をいただいたJELAの皆さんに心からの感謝の意を申し上げたいと思います。貴いお働きの上に主の祝福が豊かにありますように。

●日本に求められるアジアの人々との交流

長谷川勝義 (JELCみのり教会)

私たちが行ったカオラックやココア島がタイでは一番津波の被害が大きかったところで





す。もう丸1年が過ぎ、生々しい惨状のあとはあまり見ることはありませんが、まだ大きな船が陸地に取り残されているのを何箇所も見ました。それに壊れたままの建物もまだかなり残っています。住む家を求めている人はまだ数多くいるということです。



最後の土曜日に杉岡宣教師が案内して会わせてくれた、海岸でホテルと食堂を開いているデンマーク人と地元タイ人の奥

さんのご家族。津波の被害をともに受け、自動車に乗って逃げたが自動車もろとも流されて、ご夫妻と子供二人は助かったが、もう一人の子供さんを亡くされたということ。そのときのことを思い出されて奥様は涙ぐんで本当に津波の最も悲しいことはこのことなのだと実感させられました。

木曜日の仕事が終わって杉岡先生は、私たち二人を海のジプシーと言われているモンケン族が住む部落に案内してくれました。その人たちは、少数民族でタイの中でも差別を受けるような貧しい暮らしをしていて津波で住まいを失いました。ワッサン先生という方がボランティアを集め、すでに70戸を作り、さらにこれから50戸を建てる計画であるということ。木曜日は、この信徒の家で集会を開き聖書の話をするのです。(写真:6頁下)次第に人々が集まってきます。小さな子供たちもたくさんいます。最初は、子供向けに若い女性が歌を指導。しばらく盛り上がり、子供は他のボランティアの若者たちの指導で別の場所へ。残った大人たちにワッサン先生が、ルカ15章11節からの放蕩息子のところからお話。こうして、キリスト教を知らない生活の苦しいモンケン族の人たちへ熱心にキリストを伝えて、すでに数十人の人が洗礼を受け、礼拝するところもあるとの事。こうした人々に対して家を作るために資金を募り、世界中からクリスチャンのボランティアが集まって家を作るのを手伝ってキリストの業を行い、キリストの教えを伝えていく。こうした働きこそ本当に尊い。願わくは仏教国であるタイにキリストの教えが隅々まで伝わって、人々が差別なく幸せな生活が送れるように！

隣国ミャンマーが軍事政権の支配で民主



化が遅れ、国が疲弊しています。そして、難民は、このタイに相当流れ込んでいます。私たちが泊まったリゾートのすぐ下の林の中にトタンで覆った粗末な小屋で集落を作ってミャンマーの人たちが住んでいました。毎日彼らは、弁当をもってぞろぞろと海岸の津波復興の作業場所に行き、きつと安い賃金で働いているのでしょう。こういうことも現地に行つて初めて知ることでした。タイは、まだまだこの地域では恵まれた国なのです。

ミャンマーもカンボジアもラオスもベトナムも、もつともつと貧しく、問題を抱えています。私とみのり教会がかかわっているフィリピンもそうです。幸い杉岡先生がこの東南アジアの中心地バンコクで宣教しています。この地域で今、日本の助けが必要とされています。かつて日本は、この地域に軍事的に進出して多くの被害を与えました。そのお詫びもあります。戦後、日本は、貧しいときにアメリカなどから多くのものを与えてもらいました。今、日本は、豊かになりましたが、心も豊かになったのでしょうか。そうではありません。心が貧しくなっています。心も豊かになれば、今助けを必要としている人たちの所にいくばくでも助けをおくりたいと思います。

このボランティアを一つのきっかけとして、アジアの人々との交流をすすめ、キリストにある交わりをもつともつと深めていきたいと願っています。

●主を賛美する明るい歌声

中村吉郎(KELC泉北ルーテル教会)

23万人以上の命が一瞬にして消えたスマトラ沖地震による津波発生から丸1年。世界各国、特に多くの観光客が被害に遭った欧州では今も市民やメディアの関心が高く国際機関や人道支援団体は今日でも現地での救援活動を継続中です。一方、日本では追悼式1年目の模様がニュースとして報じられた位で話題は驚くほど少ない状況です。

昨年末、大阪に帰省時(現在、東京に単身赴任中)家内から「JELA、タイ南部地震災害のボランティアの案内」が来ているよ。参加したら!」の勧めを受けました。日頃から近畿福音ルーテル教会宣教局のタイでの働きについて、杉岡師の活動報告「プラッポーン」の記事を興味深く読んでいたので、これは是非参加しようと考えました。また、私は2001年夏、インドの

「ニルマル・ヒルダイ(死を待つ人の家)」に娘とボランティアに行った事を想い出しました。マザー・テレサの家で「さわやかな感動の汗」と共に自分にとっても「いやしの感動」を覚えたあのボランティアの日々……。「今度も何かをしたい……」の思いがつのりました。



今回のボランティアは、人道支援団体(MERCY FOUNDATION)がブーケットの北・カオラック郊外のリゾート地、コ・カオ島で被災した住民の為に建設中の住宅のペンキ塗りが主な仕事でした。本職のタイ人が基礎作りをした二階建住戸の1階部分や外壁をローラー刷毛で塗る作業です。下塗り、上塗り、仕上げ塗り……。素人でも上手に出来ます。今回は是非貴方もご参加下さい!!!

現地は30℃を越える気候でしたが、海風がとても心地よく衣服はペンキだらけになりながらも愉しく働く事が出来ました。毎日の参加者数は不特定10~20人(豪州、ニュージーランド、カナダ、アメリカ、スイス人etc.)で20~30代の若者です。私達日本人3人も壮年&熟年パワーを十分に発揮出来たのではないかと思います。毎日の昼食時やボランティア終了後、帰路のフェリーボートでの国際会談・歓談(?)は「とても楽しい一時」になりました。

一番の思い出はバンガー県（タイ南部）の小さな港町・ナムケン村の「夜の家庭集会」でした。現地の一牧師が津波被害を受けた海の民(少数民族)の人々を力一杯サポートしている働きです。当日はユース・ウィズ・ア・ミッション(南ア・韓国人)の若者達が多数参加し、現地の子供たちと共に「聖書の学び」をしました。暗い裸電球の下、一軒の民家の前庭にゴザを敷詰めた小さな集会でしたが「主を賛美する明るい歌声」に感動しました。

スマトラ沖地震の津波の跡に撒かれた小さな種は、まだまだとても小さいですが、いつの日か「教会堂」を与えられ、「主を高らかに賛美する歌声」とみ言葉が高らかに響きわたる日」が、タイ南部・バンガー県に来る事をお祈りしたいと思います。

リチャード&メアリー・グローヴス夫妻による 特別集中講義 — 死を喜んで迎えるために — Understanding Spiritual Pain



セイクリッド・アート・オブ・リビング・センター(在米国オレゴン州)の創設者であり、終末スピリチュアル・ケアの先駆者であるリチャード&メアリー・グローヴス夫妻が、ルーテル学院大学、九州ルーテル学院、お

よびJELAの招きにより初来日します。講義を一般公開しますので、貴重なこの機会をお見逃しないうちにお出かけください。

日 時:6月1日(木)～3日(土)
3日間連続終日集中講義(通訳付き)
場 所:ルーテル学院大学
(東京都三鷹市大沢3-10-20)
受講料:10,000円(3日間)

日 時:6月4日(日)
夕刻から2～3時間の予定(英語のみ)
場 所:恵比寿JELAミッション・センター
受講料:2,000円

日 時:6月6日(火)
午後3時～6時の予定(通訳付き)
場 所:九州ルーテル学院大学
(熊本市黒髪3-12-16)
受講料:未定

詳細はそれぞれの機関にお問い合わせください。

お知らせ

JELAの事業年度と賛助会費

個々のプログラムに対する献金とは別に、JELAという組織自体を支えていただく賛助会員制度が発足して半年が経ちました。現在までに150名ちかい会員が与えられ、たいへんに心強く感じるとともに、支えてくださるお一人お一人に感謝しています。事業年度(1月～12月)ごとの賛助会費は一口2千円ですので、ご支援くださる場合は同封の払込取扱票通信欄の「賛助会費」部分に必要事項を記入の上、会費を納めていただけるとありがたいです。よろしくお願ひ申し上げます。

「アジア子ども支援」の取り組みと払込取扱票の一部変更

「アジア子ども支援」では、これまで「子ども」「学校」「井戸掘り」と区分して支援金を頂戴していましたが、今回同封する払込取扱票からは「アジア子ども支援」という項目名のみを掲載することにいたします。このプログラムのためにいただく献金は、いままでどおり現地の人々や子どもたちの必要をみとす目的(予防接種、衛生的な水の提供等)に用います。それに加えて、4ページでお知らせした、貧しい家庭の優秀な子どもたちの長期的な学習支援や義足材料費などにも使途を広げます。また、近い将来ジャムケッドの

病院は建て直し計画があり、これには多額の資金が必要です。JELAは建築費の一部や建物内部の設備費として、これまで「アジア子ども支援」にいただいた、あるいはこれから頂戴する献金の一部を、このためにまとめて用いる予定です。このような現地の多様なニーズにタイミングよく最適な形で応えるには、献金区分を細分化しすぎないほうが賢明であると判断しました。ご理解くださいますよう、お願い申し上げます。

皆様の献金が具体的に使われる事柄については、その記事や写真を今後はなるべく多く掲載するように努めます。このニュースレターを通じ、現地の方々と日本人の支援者の皆様がこのろのきずなを深めていただければありがたいです。次号(8月発行予定)では、2月下旬にインド・ジャムケッドで実施された2回目の義足作りワークキャンプの模様を詳しく掲載します。楽しみにお待ちください。

「キリスト新聞」にJELAの記事掲載

2005年8月13日付「キリスト新聞」「望楼」欄に、アフガン難民ヒサール・フセイン氏に対するJELAの奨学金の記事が取り上げられました。「……JELAのような運動が、公を開き、難民に優しい制度づくりへの第一歩となることを期待したい。」とその活動を評価しています。

支援者一覧 (2005年10月1日～2006年2月28日)

<各プログラム支援献金>

アクトン・ケビン/尼崎治/有坂日出子/敬臣/池谷節子/石川更志/石澤とし子/石田浩子/石原寛/石丸美奈子/泉洋子/市ヶ谷教会/井上新/井上摩記/今村美奈子/岩崎高紀/岩本保子/ヴァンデルタング・エリ子/梅村綾子/浦和ルーテル学院/江澤妙子/大分教会/大垣教会/大柴節子/大友陽子/大中真理/大野英雄・久子・利恵・良・秀/小川晶人/荻窪邦昭/梶原喜美子/加藤悦子/加藤俊輔/加藤久子/兼岩恵美子/上窪松子/川上範夫/木村博之/京谷信代/京都教会/清田純次/釧路教会/窪田銑子/窪田春枝/倉重ミドリ/恵泉幼稚園/甲府教会女性会/古財悦子/小坂敦子/小林裕子/小松勝夫・かつみ/小宮俊作・武子/西条教会/西条ルーテル幼稚園/斉藤正恵/佐藤徳男/佐藤操/三康子/重野信之/柴田康子(愛子)/柴田美穂子/清水よしこ/霜尾閑子/下関教会女性会/周田裕芳/白髭市一郎/尻無浜紀美子/杉浦りえ/鈴木やす/鈴木連三/須永敏子/角田健/聖望学園/関口佳子/関本憲宏/高橋寿子/高橋トヨ子/竹内貞夫/竹下香代子/田中美紗子/谷川陽子/玉名教会/玉名ルーテル幼稚園/柘植春子/辻昭子/堤重敏/田園調布教会CS/田園調布ルーテル幼稚園/寺澤節雄・陽子/都南教会CS/鳥居和代/中川弘子/中川浩之・寿美子/長嶋久美子/中村桂子/中村孝司・敬子/中村雍子/成相圭子/西一郎/西恵三・知恵/西川喜久美/西川寿一/西立野園子/日本ルーテル教団関東地区婦人の集い/野村證券/芳賀直哉・美江/萩原耕介/箱崎教会女性の会/長谷川美恵子/早瀬康平/ハルボ・セン美智代/日野原真紀/平島徳蔵/平林洋子/廣田正勝/廣幸朝子/福田光利/福田陽子/藤井浩/淵田康徳/古川文江/保谷教会/本郷教会泉の会/本郷教会+本郷学生センター/前島なをみ/増島俊之/松浦雪子/松田美智子/三嶋昭子/水野豊子/南節子/南谷なほみ/稔台教会婦人会/宮坂恵喜子/宮澤真里子/宮元真一/むさしの教会サフラングループ/牟田青子/宗方美代子/村上裕子/村上三枝/むろいともこ/森保宏/森田寛子/八坂由貴子/山泉順子/山口美子/山崎恵美子/山本一男/吉川範子/吉田貝子/若原奇美子/和田英男・智恵子/渡辺映子/渡辺高伸/渡辺聡/Delbert Anderson/Gloria Dei Lutheran Church/Elvira Aamodt/Evangelical Lutheran Church (Pigeon Falls, WI)/Kenneth Dale/Norman Doeden/Paul Winemiller/Peter Rasmussen/Word of Peace Lutheran Church 他匿名数名

<賛助会費>

尼崎治/池谷節子/石森京子/今村美奈子/梅村綾子/梅田満枝/小川晶人/大柴節子/浦田教会婦人の会(布施京子)/窪田銑子/窪田春枝/小石川教会/高念澄子/古財成成/小坂敦子/坂根信義/斯波健一/鈴木連三/高橋要子/高橋佳子/竹越英子/谷口恭教/中村雍子/西立野園子/西平薫/萩原耕介/橋口栄子/早瀬康平/日野原万記/兵藤真理子/廣田正勝/福田陽子/増島俊之/松澤貝子/宮澤美紀江/迎恒夫/迎千栄子/渡辺聡

以上、敬称略。ご協力ありがとうございました。

編集後記

一本2千5百円の義足、それは「新しいいのち」の贈り物であるとパソン牧師は書いています(4ページ)。落ち込んでいた人が新しい希望をもち、自信をとりもどし、生きる喜びを味わう。その瞬間に立ちあえるのがインドの義足作りワークキャンプです。あなたも来年参加してみたいはどうでしょう。

この夏の米国グループ・ワークキャンプには、過去最多の20名の青少年が全国から参加します。この若者たちが「霊的な新しいいのち」をさすかり、主にある人生の素晴らしさに心が開かれるように、共に祈りください(M)

JELA
Japan Evangelical Lutheran Association
日本福音ルーテル社団
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26
Tel. 03-3447-1521 Fax. 03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp
日座番号 00140-0-669206 加入者名 日本福音ルーテル社団

再生紙使用